

# パラスポーツの用具開発はCSRではなくCSV 多方面からのコミュニケーションで魅力を発信

先端産業で培った確かな技術力とデザイン力をベースに、パラスポーツ用具の技術開発も行うRDS。トップパラアスリートとの妥協なき共同開発を通じて培った技術を一般向けプロダクトにも応用する取り組みをスタートさせる。また、より広く情報を届けるための多角的なコミュニケーションも実践している。



## 株式会社RDS



体験会・講習会



協賛



アスリート雇用



技術支援・  
製品開発

### 企業情報

#### 株式会社RDS

【所属人数】30名  
【住所】東京都渋谷区千駄ヶ谷3-8-6  
(東京デザインオフィス)  
埼玉県大里郡寄居町  
赤浜1860(開発スタジオ)  
【電話】048-582-3911  
【URL】<http://www.rds-design.jp/>



#### HEROX

本文内にも紹介があった株式会社RDSが運営するWEBメディア。杉原社長が編集長を務め、各職者との対談やスポーツ特集など、メディカル・テクノロジー・スポーツという3つの柱を軸に、多彩な切り口で発信している。  
【URL】<http://hero-x.jp>  
【運営】株式会社RDS



### 自社の強みを活かしたパラスポーツとの関わり



ドライカーボン松葉杖

自動車やロボット、宇宙航空といった先端産業で開発を行う同社。2013年にグッドデザイン金賞/経済産業大臣賞を受賞した「ドライカーボン松葉杖」をきっかけに、福祉やパラスポーツ分野にも進出。

車いす陸上アスリートの伊藤智也選手を開発ドライバーに迎えて、車いすレーサー(陸上競技用車いす)の開発に乗り出した。また、シーティングポジションの最適化を計測するシミュレーター「RDS SS01」も千葉工業大

学 未来ロボット技術研究センター fuRo と共同開発。2019年9月には車いすレーサー「RDS WF01TR」の販売をするなど、自社の強みを活かしてパラスポーツに深く関わっている。



(左)伊藤選手(パラ陸上) (右)杉原社長

「チェアスキーや車いす陸上のように用具が大きなウエイトを占める競技にとって、大会は、選手と用具開発企業が手をとり合って挑む大舞台であり、パラアスリートは大切な開発パートナーです。」と、同社の杉原行里(あんり)代表取締役社長は語る。

大会で培ったテクノロジーを応用し、  
自社の利益につなげる



「そもそも当社にとって、車いすレーサーやシミュレーターの開発は、CSRではなく、CSV(Creating Shared Value: 共有価値の創造)という位置づけです。F1レースで培われた最先端テクノロジーの数々は、市販車などに転用されています。これと同じように、大会で得た知識や技術を一般社会向けのプロダクトに応用し、きちんと利益につなげていくつもりです。」(杉原社長)

例えば、シミュレーター「RDS SS01」は、競技用及び一般向け車いす用にはもちろんのこと、高齢者やオフィスワーカー用のいすなど、長時間座る人向けのプロダクトへの応用を視野に入れている。



未来型モビリティとして作られた「RDS WF01」

また、同社は、車いす自体の概念を変えようとしている。一般向けに開発した車いす「RDS WF01」は、「いつか乗ってみたい車いす」をコンセプトに、“かっこよさ”を重視した未来型モビリティとして作られている。

### コミュニケーションは多角的に

「パラスポーツって面白いと体感したり、自分に少しでも関係していると思えば、見方が変わるのではないのでしょうか。そして、そう思ってもらうためには、一方的なコミュニケーションには限界があり、多角的なコミュニケーションが必要だと思います。」(杉原社長)



車いすレーサーを体感できる「CYBER WHEEL X」

同社の車いすレーサーについては、同社所有のWEBメディア「HERO X」を通じて、開発の様子やプロダクトの特徴はもちろん、競技自体の魅力や車いす陸上アスリートのすごさなど多彩な切り口で発信し続けている。さらに、ゲーム感覚で車いすレーサーを体感できるVR型のエクストリームスポーツ「CYBER WHEEL X」を株式会社ワントゥーテンと共同開発。別の角度からのアプローチも仕掛けた。「最初は小さなスタートでも、多くの人が勇気を持って決断し進むことで、どんどん大きくなっていく。もちろん、そこに共鳴する人もいれば反発する人もいるでしょう。でも、これと思ったら、どんどん行動するべきです。当社ではいま、2020年に向けて複数のプロジェクトを進めています。僕らの取り組みを通じて、多くの人が自分ごと化してもらえたらと思います。」(杉原社長)

※本文については、2019年9月時点のものです。

### 今後の取組について

現在は、車いすレーサー開発から生まれた、シーティングポジションの最適化を計測するシミュレーター「RDS SS01」の実証を重ね、得られたデータを実際の車いす開発に活用する取り組みを加速。パラスポーツから生まれた技術を一般社会に役立てていくことを目指しています。